

洗浄・滅菌に関する今後のトータルドキュメンテーションの方向性

マイケル・ルナウ ゲティンゲ・ルナトロニック 社長

背景：

近年、欧州では再生する器械の質を保証するために、洗浄・滅菌の状態、個々の器械の購入時期やその他必要な情報を文書化して一元管理(トータルドキュメンテーション)

することが必要だった。しかし、それらを紙ベースで行うには、経費がかかりすぎることも理解していた、

欧州では、感染管理と患者リスクを考えて、器械再生を「いつ・誰が・何を・行ったか」「どの器械を使うのか、使ったのか」また、それらはどのような過程を経て、現在その器械は何処の部署、部門にあるのかを簡単に検索するためのシステムが開発されてきた。このシステムによって、どの器械がどの手術に使用されたかを追跡することが可能となり、コストの削減にも貢献している。

本セミナーでは、欧州で普及している器械のトレーサビリティ(追跡)と質の保証を行うためのシステムの概要と今後の動向について報告する。

現状：デジタル化の実現と情報の一元管理できるシステムの登場

<システム概要>

- ・ 患者のリスクを最小限にする
- ・ シンプルな作業と業務内容
- ・ 情報マネージメントの強化
- ・ 過剰な器械をコントロールしてコストの削減をする
- ・ 十分満足できる情報内容の記録ができる
- ・ 各器械の洗浄・滅菌などの再生工程の履歴を簡単に素早く検索できる
- ・ ヒューマンエラーの防止を可能にする
- ・ 二次元バーコード器械個別認識システムとの融合ができる
- ・ 器械、セット組、購入価格、購入した代理店等の情報をデータベースから取り出せる
- ・ バーコードの入力によってパソコンが扱えなくても使用できる

このシステムによって、医療施設の持っている課題を解決し、器械の再生プロセスを安全に保管し、迅速で確実に検索が可能になった。

まとめ：考えられる今後の方向性

欧州では、再生器械の質を保証し履歴を追跡できるシステムは中央材料部から始まった。現在、このトータルドキュメンテーションシステムが病院全体へ広がろうとしている。

我々、GETINGE グループは早くからこれらの要求を満たすシステム(T-DOC)を開発してきた。日本では、欧州より進んだ電子カルテシステムが早くから普及していることにより、中材の体制が整えば、トータルドキュメンテーションシステムが短時間で普及するのではないかと考える。それによって、再生器械の質を保証し、患者のリスクを最小限にすることと、同時にコストの削減も可能となる。